

# 華

華 70号  
令和 5年 9月 発行

編集 慶徳会 広報室  
〒567-0035 茨木市見付山一丁目3-29  
FAX 072-665-5165  
電話 072-665-5165  
072-665-5166

令和5年4月1日、子どもの家の3つ目の地域小規模児童養護施設となる「リュックホーム（ホーム）」がオープンしました。ホームは地域との深い交流の下、6人定員の家庭的な雰囲気の中で、子ども達の自立を支援する施設です。リュック、は、デンマーク語で、人生における幸せ、を意味し、子ども達の幸せを願ったネーミングです。ホームで生活を始めた子ども達にとつて、新しいお家に新しい家具、新しい環境にと心が弾みます。一人ひとり自分の部屋があることやお庭があることにもとても喜んでいました。職員は初めてのご飯作りに試行錯誤をしながらも、子ども達のリクエストを聞き、一緒に楽しみながら

かな建物になりました。子ども達がのびのびと生活ができ、健やかに成長していけるよう、職員一同精進してまいりますので、温かく見守って下さいますよう、お願い申し上げます。2階には一番先輩格のフォスターホームが入り、賑やかな準備にも頑張っています。準備中から、食事作りを覗きにきたり、食材の買い物に行ったりと、今まで未経験なことがたくさんできるようになりまし

常観堂を背景に描く子もいれば、鳥や自分自身をモデルにしたり、たくさん落ちている花びらを集め、それを絵にする子など、さまざまにアーティストぶりを発揮していました。暖かな陽気に満ちたこの日、皆でとても穏やかな時間を過ごすことができました。コロナ禍から、徐々に日常を取り戻して行く中で、子ども達が今までの制約を振り払うように、素敵な経験を重ねてほしいと願うばかりです。

「コロナ感染がようやく、収まりつつあるようですが、この暑さの中では外出もままなりません。夏をお元気で快適に過ごして頂くため、事業所内ではクーラーを適切に使用することをベースに少しでも涼しく感じて頂けるよう、環境改善や食事などにも工夫をしながら今後とも努めてまいりますと考えております。

## 子ども達で「花見花祭り」



子ども達の描いた花や常観堂

## ふじだな

ようやく秋を迎えましたが、地球温暖化で現代の夏は、猛暑・酷暑という言葉が生まれるほど気温が高くなっています。最近10年間で1.09度も世界の平均気温が上がり、異常気象も続いています。このまま推移しますと今世紀末には気温はさらに最大5.7度、海面は82cm上昇すると予測され、これに伴う環境被害が深刻な懸念となつていきますので、全世界的に「温室効果ガス排出0」（カーボンニュートラル）を目指した取り組みが進められています。これを達成するためには、国や企業・組織の果たす役割が大きいことは言うまでもありませんが、個人ができることとして、電気使用量の節約、食品ロスをなくす、車の利用を減らす、ごみ排出量を減らす、緑を増やすことなどが挙げられますので、うだるような暑さを少しでも和らげるためにも、日常生活で心掛けていくことが大切です。

http://www.keitokukai.or.jp  
hana70-1

## 「リュックホーム」を開設！！



新築のリュックホーム（2階はフォスターホーム）

令和5年4月1日、子どもの家の3つ目の地域小規模児童養護施設となる「リュックホーム（ホーム）」がオープンしました。ホームは地域との深い交流の下、6人定員の家庭的な雰囲気の中で、子ども達の自立を支援する施設です。リュック、は、デンマーク語で、人生における幸せ、を意味し、子ども達の幸せを願ったネーミングです。ホームで生活を始めた子ども達にとつて、新しいお家に新しい家具、新しい環境にと心が弾みます。一人ひとり自分の部屋があることやお庭があることにもとても喜んでいました。職員は初めてのご飯作りに試行錯誤をしながらも、子ども達のリクエストを聞き、一緒に楽しみながら

「5類感染症」移行にあたって  
看護室長 保田 千世子  
令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症（コロナ感染症）は季節性インフルエンザに同じく「5類」に分類され、制度的には感染予防対策は個人の判断に委ねられることになりました。慶徳会では、コロナ感染症発生当初から職員へ感染状況の変化に応じた通知文などを発信し、周知を徹底してきました。しかし、感染拡大に伴い、法人内でも多くの方が感染し、一部の事業所ではクラスターが発生しましたが、適切に感染症対策を講じるとともに、法人内診療所の先生方や近隣の医療機関と連携し、迅速に対応した結果、お陰様で重症化するケースはほとんどありませんでした。「5類」移行に伴い、国では多くの感染対策の見直しが行われましたが、慶徳会としては、感染拡大を防止するため引き続き迅速な状況把握のもとに、慎重かつ、的確に対応してまいります。つきましては、可能な範囲でマスクの着用にご協力頂くとともに、手指の消毒や換気など基本的な感染症予防対策の継続をお願いします。一方で、過去3年間に制限や中止となつていた外出やご家族等との面会、事業所内の行事などは予防対策を講じながら積極的に実施できるよう、全職員が取り組んでまいります。

西河原デイサービスセンターでは、令和4年5月から通所型サービスC（短期集中リハビリトレーニング）事業を開始し、一年を迎えました。

この事業は、茨木市総合事業のサービス体系の一つで、個々の持てる能力に応じ、住み慣れた地域で自立した日常生活を継続して頂けるよう、短期集中的なアプローチを行い、心身機能の改善を目指すことを目的としています。

昨年の初回面談では、何となく遠慮がちで、不安げなご様子の方が多数見受けられました。が、「元気になる」との一心で参加される方が大勢おいでになりましたので、皆様が、安心して前向きに取り組んで頂けるような言葉掛けを、意識しながらサポートしていこうと、スタッフみんなで話し合ったことが思い出されます。

いつまでもお元気にお過ごし頂くためには、運動は勿論ですが、実は喫食に関わる「噛む」「飲み込む」といった「栄養と口腔機能」の状態も重要となります。

「粗食が一番、脂っこいものは体に良くない」と思われがちですが、元気に体を動かすためには、しっかりと食事を摂ることが重要で、食事バランスが良くなると体も元気になる、運動もはかどりますので口腔状態も大切です。

理学療法士の春名了輔先生や看護師からこのようなアドバイスを頂きながら

## 1 周年

### 通所型サービスC事業



理学療法士による個別指導



自宅でトレーニングができるよう  
身体の動かし方の復習



看護師による栄養と  
口腔ケアの面談

リハビリトレーニングに励んで頂いたお陰で、食事に関心がなかった方も、終了間際には自分に不足している物を食べるようにしようと思えるなど、意識の変化が見られました。

約3カ月間に全12回で終了となりますが、その間に一緒にトレーニングに励んでこられると、週1回皆さんにお会いできることの楽しみやメンバーの「仲間意識」が強くなり、終了前には「寂しくなるね」と別れを惜しまれている方も少なくありません。

コース終了後は、健康維持のために多世代交流センターの「短期集中運動教室」に参加される方もお見受けし、ご活動の幅を広げて頂いていることも有り難く思っております。

さらに嬉しいエピソードとして、以前同センターの体操教室に元気に通われていた方が、通所型サービスCでリハビリトレーニングに励まれて、元気を取り戻され、再び体操教室に参加できるようになり、馴染みの方々から「見違えるくらい、元気になったね」と声を掛けられている様子に接し、改めてこの事業の効果を実感しました。

このサービスをご利用になったお一人おひとりが心身ともに元気になり、ご自身が望む暮らしの実現をご一緒に目指していきたいと、スタッフ一同、意識してこれからも取り組んでまいります。

茨木・中条地域包括支援センター（センター）は令和3年度に公募を経て社会福祉協議会から業務を引き継ぎ、2年が経過しました。

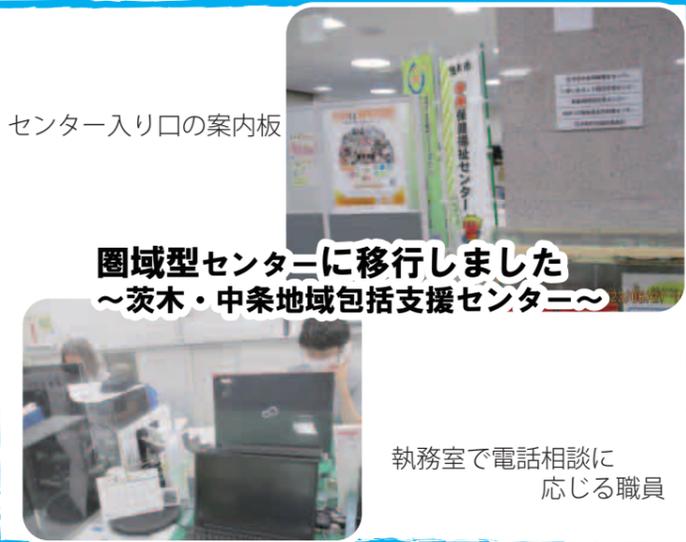
センターは市内中心部にあり、人口密度も高く、医療機関、公的機関に商業施設などが集中し、交通量も多い地域です。

開設当初の目標は、医療機関や商業施設へのアピールで、市内全センターを掲載したチラシを持ってあいさつ回りを行い、それを重ねたことにより、皆様の認知度は高まったものと思います。

地域住民へのアプローチとしては、民生委員・福祉委員の皆様や老人会等として全部ではありませんが自治会等を対象に啓発をさせて頂きました。

この活動を通じて、「介護や健康面で、今のところ必要のない方々」への周知の難しさを感じましたが、お陰様で年々啓発に協力をして下さる方も増えてまいりました。

また、令和5年度からは、中央圏域の圏域型センターとしての役割を担うことになり、事務所も片桐町の中央保健福祉センター（保健福祉センター）内「障害福祉セ



### 圏域型センターに移行しました ～茨木・中条地域包括支援センター～



執務室で電話相談に  
応じる職員

ンター「ハートフル」1階に移転し、隣接の保健福祉センターをはじめ各相談支援機関とも連携し、世代を超え複合的に健康づくりや地域づくりに努めてまいります。

そして、大池・中津センターとも同圏域内センターとして、合同で研修会や地域の皆様と協働で進める「徘徊模擬訓練」などの行事に取り組んでおります。

地域ケア会議を通じて、見えてきた地域や高齢者の課題を解決できるように、地域住民の皆様や関係機関と連携し、センターの事業を推進してまいります。

センターが市の中心部にあることから、総合相談の件数も多く、また、近年、いわゆる「おひとり様」に関する相談も増えていきますので、介護予防・自立支援の視点を大切に、「早くに相談してよかったです」と言ってもらえるよう、迅速かつ丁寧

から業務にあたっております。

### テイクアウトお食事会～真華苑～

真華苑のお食事は、皆様から定評がありますが、時に、「お食事会」として雰囲気異なる外食もお楽しみ頂いています。しかし、コロナ禍のため、残念ながら、これが叶わなくなり、皆様の御意見も伺いして始めているのが、「テイクアウトによるお食事会」で、事前にお好みの料理をお伺いし、職員が店からテイクアウトし、苑で召し上がって頂いています。

令和5年は、6月下旬から7月中旬にかけて9回のお食事会を開催しました。

とんかつやお寿司など六店から選んで頂きましたが、今回の一番人気は鰻料理で、「鰻重」を召し上がった方からは「美味しさのあまり言葉ができません」など大絶賛で、たくさん笑顔の中でのお食事会となりました。

コロナ禍も和らぎつつありますが、引き続き予防対策に留意しながら、少しでも楽しんで頂ける行事に取り組んでまいりたいと思っております。



とても美味しくいただきました

